

防災サバイバルインフォメーション めいわ

2025防災の日特別号

7月の津波注意報について

◎カムチャツカ半島付近を震源とする地震に伴う津波注意報発表（7月30日）

明和町を含む伊勢・三河湾に対して発表された津波注意報は、翌日に解除されるまで、25時間余り継続されました。明和町では特段の被害が確認されませんでした。津波避難タワーなどに自主的に避難された方が複数いらっしゃいました。

災害のとき、特に津波からの避難は、**ためらわず**、ご自身の体力などに応じてできる限り**遠く、高く**に避難することが重要です。今回自主避難された方のように、ご自身の状況を考えて**率先して避難する姿勢はご自身やご家族、周りの方の生命を守ることに繋がります**。今回被害が無かったことに油断せず、引き続き近い将来発生する**南海トラフ地震に警戒し**、特に、この地域で**強い揺れを感じた場合や津波警報が発表された場合**などは、迷わずただちに避難しましょう。



◎大淀小・下御系小への避難は最終手段！！

津波避難について

津波避難の原則は、「**津波の来ないところまで逃げる**」ことです。津波の後には、警報等が解除され、浸水が解消するまで、2日間程度降りられない可能性があります。またその後、内陸部の避難所に移動する道中は、津波がくる前よりも過酷になっていることが予想されます。

避難施設はあくまでも「逃げ遅れ対策」であり、お身体状況や地震での怪我などにより浸水区域外への避難が難しい方が使用するものです。普段から、**浸水区域外への避難を前提として、避難経路の検討や訓練**を行っておきましょう。

また、大淀小学校や下御系小学校は古く、地震に耐えても**液状化や津波で損壊する可能性**があります。高い建物への避難（垂直避難）を行う場合も、**津波避難タワーやイオンモール明和屋上を優先し、小学校は最終手段**としてください。



津波に関する情報

◎明和町は「伊勢・三河湾」

カムチャツカ半島付近を震源とする地震に伴う津波では、「三重県南部」に津波警報、「伊勢・三河湾」に津波注意報が発表されましたが、**明和町が含まれる予報区は「伊勢・三河湾」**です。伊勢市以南は「三重県南部」ですので、市町界付近の方はご注意ください。

◎警報等について

津波注意報は、**20cm以上・1m以下の津波**が予想されるときに発表されます。海の中にいる人はただちに海から上がり、海岸から離れてください。

津波警報は、**1mを超え3m以下の津波**が予想されるとき、**大津波警報は、3mを超える津波**が予想されるときに発表されます。沿岸部や川沿いにいる人は、**ただちに高台や避難ビルなど安全な場所に避難**してください。

「防災の日」について

大正12年9月1日に発生した関東大震災は、震度6を観測する地震と火災、津波によって、全壊・全焼棟数は約29万棟、死者・行方不明者が約10万5,000人に及ぶ甚大な被害をもたらしました。時代が異なるため、一概に比較はできませんが、近年の大規模災害である阪神・淡路大震災や東日本大震災の数字を大きく上回る、きわめて大きな災害でした。

この震災は、近代日本の災害対策の出発点となり、これを教訓として一人ひとりの**防災対策の重要性**を広く国民に理解してもらうため、**9月1日**が「**防災の日**」と制定されました。

南海トラフ地震について

いつ発生してもおかしくないと言われる南海トラフ地震ですが、最大クラスの被害が発生すると、全国で**全壊・焼失棟数は170万棟**を超え、**死者数は30万人近く**に及ぶ可能性があります。明和町でも、広い範囲で**津波浸水**が発生するほか、**住宅倒壊、火災、液状化**など様々な被害が全町的に発生するほか、多くの方が避難生活を余儀なくされる想定です。

この被害は、各ご家庭で**住宅の耐震化**を行うこと、**感震ブレーカー**などの**出火対策**を行うこと、ご家庭での**食料や電気・燃料等の備蓄**を充実させること、**家具の転倒・落下対策**を行うこと、**津波等からの早期避難**を確実に行うことなどで大幅に減らすことが可能です。

防災の日と、今後の総合防災訓練や自治会等での訓練をきっかけに、ぜひ個人の備えを見直し、災害に強い明和町を目指しましょう。

ご家庭での備えについて

- 家庭での防災において、もっとも重要なことは**住宅の耐震化**です。建物が無事であれば、地震の後も避難所で生活せず、自宅に居続けられる可能性があります。避難所は、多くの方が共同生活を送る場所で、必ずしも快適に生活ができるとは限りません。ご自身やご家族の**生命を守る**ことはもちろん、自宅で生活しながら物資や情報の支援を受ける「**在宅避難**」を行うためにも、まずは住宅の耐震化を行いましょう。
- 道路沿いのブロック塀等が倒れると、その場にいた方を死傷させるおそれがあるばかりか、津波等からの避難の妨げにもなります。早期に撤去・改修を行いましょう。
- 備蓄品や非常持ち出し品は定期的に点検していますか？ 期限が切れる前に交換することはもちろん、夏と冬では必要なものが異なりますので、季節によって見直しを行いましょう。